ケース 17　みかんだけじゃない。八幡浜に活力を。
ー　極少産業にかけた地域活性　ー

キーワード：綟子網（もじあみ）　漁業以外の用途・契約

1　学習内容

全国に３社しかない極少産業を通じ、八幡浜の復活を目指したある企業の取組

2　学習目標

漁獲を目的とする網の中でも、「綟子網（もじあみ）」という漁師の方々にもさほど知られていない網がある。その「綟子網」を作り続ける小さな企業が描いた、事業の生き残りと地域活性を目指す取組の事例の考察を通して、その特徴や在り方について理解する。

3　学習指導要領において対応する科目、単元および学習内容

「マーケティング」

⑹　販売経路と販売促進

ア　販売経路

販売経路の種類と特徴について理解させる。また、販売経路の決定に関する具体的な事例を取り上げ、販売経路の設定、強化及び効率化が顧客満足の実現や価格に及ぼす影響について理解させる。

「商品開発」

⑵　商品の企画

ア　環境分析

経済動向、技術動向、消費の傾向、消費文化など、商品を取り巻く環境について理解させる。また、環境の分析結果を基に、企業が自社の特徴を踏まえて商品開発に関する意思決定を行う過程について理解させる。

「ビジネス経済」

⑵　需要と供給

ア　需要の概念と需要の変化

需要の概念、価格や所得と需要の関係、限界効用の逓減、需要の弾力性、所得効果及び代替効果について理解させる。

「電子商取引」

⑵　電子商取引とビジネス

イ　企業間取引と企業・消費者間取引

情報通信ネットワークを活用した企業間取引と企業・消費者間取引について、具体的な事例を取り上げて理解させる。

4　評価の観点

・漁網販売による経営活動に関する基礎的・基本的な知識を身に付け、社会貢献などビジネスに対する望ましい心構えや考え方について理解している。　【知識・理解】

・新たな商業的戦略と地域を活性化させる方法について思考を深め、表現している。　【思考・判断・表現】

事例　ケース 17　みかんだけじゃない。八幡浜に活力を
ー　極小産業にかけた地域活性　ー

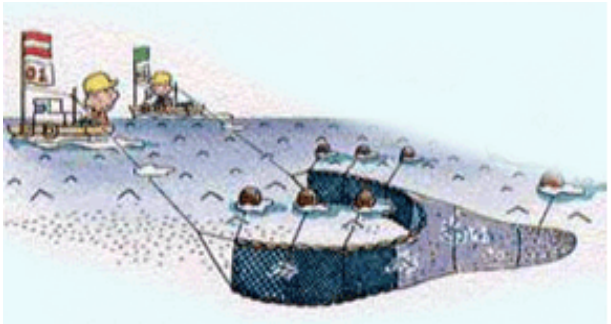
①　綟子網製造

八幡浜市穴井地区において、綟子網製造は、明治 28 年（1895 年）頃、薬師神伝治（でんじ）さんが個人経営として始めた。そもそも綟子網とは何か。どのようなものなのだろうか。

八幡浜市真穴地区（真網代地区と穴井地区の総称）といえば「みかん」、そして「座敷雛発祥の地」というイメージが強い。しかし、以前はそれとは違う顔を持っていた。製糸工場もあり、手袋、タオルなどを作る事業所がいくつもあった。伝治さんは製糸工場で作られた糸で、漁業用の網造りを独自に行っていた。いろいろな種類の網がある中、製造が難しいとされ、主に稚魚や幼魚の養殖用生け簀と、バッチ網というイワシ曳きやちりめん曳きに使われる「綟子網」も作っていた。今では綟子網を製造する事業所は日本国内で３社しかなく、その１社が朝日綟子網株式会社である。

綟子網の綟子とは、糸の撚（ひね）りを戻すという意味で、糸に撚りをかけ、出来たその糸の撚りを戻して解いたところに緯糸を入れ、また撚りを入れて網を形成していくことから、そのように呼ぶようになったとの説がある。

その後、明治 42 年（1909 年）に伝治さんが「手動綟子網機」を発明している。



バッチ網

②　朝日綟子網株式会社

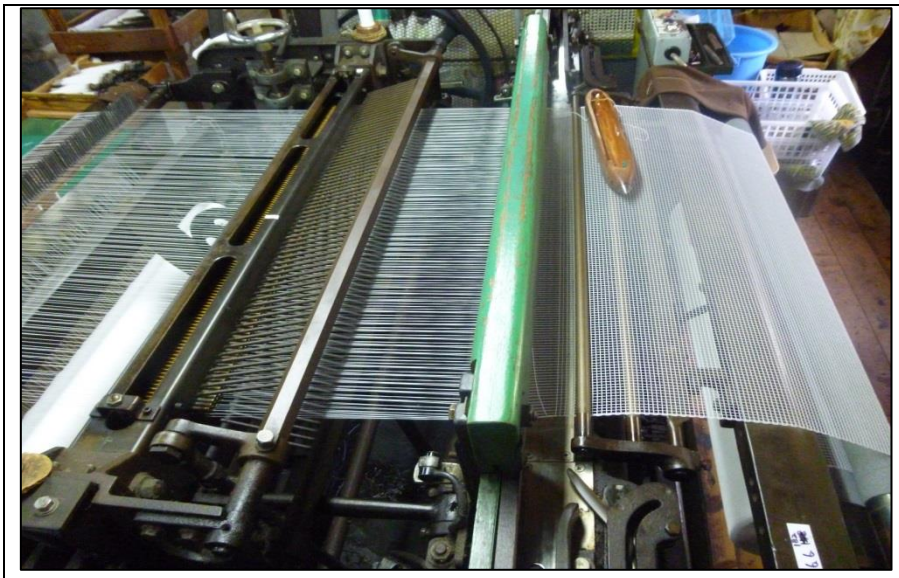
大正 15 年（1926 年）に朝日綟子網株式会社を創業する。現在綟子網を製造する事業所は広島県呉市と福山市に１社ずつあるが、綟子網を専業で製造しているのはここだけである。

昭和 40 年代の最盛期は、従業員 80 人を雇い入れ、17 時間工場を動かすほどであったが、現在は 30 人ほどの非正規雇用の女性のみで、工場の稼働時間も８時～17 時までである。

需要が減少したことも間違いないが、少しずつ若者が地元を離れ、男手は漁業とみかんづくりに移行していっている現状も絡んでいる。現在は、伝治さんの孫にあたる傳次（でんじ）さんが三代目として引き継いでおり、お子さんである良昭さんが常務として次に控えている。

③　販売経路

網を製造するとはいえ、上図のバッチ網のような形まで仕上げるのではない。言うなれば着物の生地を織って巻物に巻き、仕立て屋に着物として仕上げてもらう要領と同じである。販売先は「網屋」と呼ばれる業者から、用途、種類、寸法などの注文を受け、１反（約 150m）の長



さに巻いたものを流通させている形でである。たとえ隣町の漁業従事者から、朝日の綟子網が欲しいと受注があったとしても、生け簀用やバッチ網用に形成された網が必要なのであれば、漁業従事者は「網屋」に発注しなければならないことになる。

綟子網づくりは多くの人手と高度な技術が必要である。まさに極小といえる産業であるが、思うように流通させることの出来ない難しさも問題となっている。

④　今後の課題

四代目として、先の朝日綟子網、そして真穴地区のことが頭から離れないという良昭さんにお話を伺った。

「３社しかない綟子網製造業者のうちの最大規模Ｎ社は、製造業と網屋を両方手がけている。主に製造している網が綟子網でないということから、専門で製造している朝日のような小さな事業所も生き延びている。かといって、網屋も請け負うほどの資本、設備などはない。何とか原反のまま販売できる道はないものかと思案していた矢先、香川県のとある醤油製造業者からホームページを見たと問い合わせがあり、交渉の結果、原反のままでの契約が取れた第１号となった。地元民の誰しも真穴地区を愛している。しかし、みかん農家と若干の漁業従事者、地元で事業所を営んでいるのは朝日しか残されていない。多くの人が地区外で働くしかない小さな町に人を呼び戻し、活気を取り戻すために新たな光が見えた気がした。」

代々続いてきた綟子網製造業と真穴地区を愛する良昭さんは、常により一つ上を求めている。

2016/6/24　資料作成

ワークシート

ケース 17　みかんだけじゃない。八幡浜に活力を。

ー　極少産業にかけた地域活性　ー

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　漁網製造業者と網屋との関係をまとめてみよう。　【知識・理解】

2　あなたの考える新しいビジネスを述べなさい。　【思考・判断・表現】

3　この内容から感じたことを述べなさい。　【思考・判断・表現】

ワークシート　解答例

ケース 17　みかんだけじゃない。八幡浜に活力を。

ー　極少産業にかけた地域活性　ー

（　　）年（　　）組（　　）番　氏名（　　）

1　漁網製造業者と網屋との関係をまとめてみよう。　【知識・理解】

網屋と呼ばれる業者は、漁網製造業者からロール状になった漁網（原反）を仕入れ、漁業従事者から注文を受けた形状に形作り、販売する。すなわち、漁網製造業者は、網屋からの注文を受けた原反を製造するのみで、たとえ地元の漁業従事者から漁用の網を受注しても、それを製造・販売したり、値段を決定したりすることはできない。

2　あなたの考える新しいビジネスを述べなさい。　【思考・判断・表現】

各自の考え

3　この内容から感じたことを述べなさい。　【思考・判断・表現】

各自の考え